

中能登町学校事務の相互支援体制づくりと業務改善

鹿島郡学校事務研究部会

中能登町立鹿島小学校 川口 可奈子

はじめに

鹿島郡学校事務研究部会は、小学校3校、中学校1校の4名の事務職員で構成されている。

令和2年度より研究テーマを「中能登町学校事務の相互支援体制づくりと業務改善」と設定し、法改正や働き方改革への意識が高まってきた社会情勢等の背景を受け、「中能登町共同学校事務室」の理想の設置形態について事務職員の視点で考えることにした。

少ない人数だが4名とも経験年数25年以上のメンバーで、「4名だからこそ」という少数精鋭の部会だと思ひ研究を推進している。また、今後の世代交代を見据えながら、専門性を活かしたより効率的・効果的な事務処理を図るための方策を考え、資質向上を目指すことを目標とした。

1 研究の内容

(1) 「中能登町共同学校事務室」を目指して

令和2年度からスタートしたが、郡学教研で年3回、七鹿地区合同研修会で年2回の限られた回数しか集まることができず、思うように研究を進めることができていない。

「中能登町共同学校事務室」の設置を目指し「定例会」の開催を考えたが、研究をスタートした当初よりコロナ禍であったため、まだ1度も実現していない。今後は状況をみながら、月に1回、2時間程度で実施していきたいと考えている。

定例会は、教育委員会と事務職員の双方にとって情報交換や共通理解を図るよい機会にもなり、これをきっかけにより良い信頼関係を築いていけるのではないかと思う。

(2) フォルダの統一に向けて

相互支援体制づくりの取り組みでは、日常業務の標準化による業務改善と、新採や若手事務職員へのサポートについて考えてみた。私たち（経験年数25年以上）の世代にとって「変える」ことはとても勇気と努力が必要である。しかし、これからの世代交代や若手の人材育成の観点から、標準化に向けてチームでできる取り組みについて検討することにした。

日常業務の標準化では、各学校の保存データについて、フォルダやファイルの名前と分類方法および階層に至るまでを、4校ですべて揃えることにした。転任者を含め、新たに赴任した事務職員にとってはファイルの保管場所が非常に分かりづらく、見つけられない状況が多くある。このようなファイルを探す時間のロスとストレスを解消するため、データの分類方法について検討を始めた。

中能登町には「文書分類表」がないため、県事務研の「教育事務ハンドブック」の目次の項目を参考に、大分類から中分類、小分類のフォルダ名、また細分類に至るまでの階層についてファイル名を設定した。

フォルダやファイルはあまり細かくまで分類せず、学校独自のファイルがある場合は「99_校内」という保存場所を作り、各学校の実態に応じて融通をきかせられるようにした。

また、メールで大量に届く教育事務所や町教委からの添付ファイルは「00_通知・メール文書」のフォルダに保存し、フォルダ名の先頭には文書の日付と文書名を簡単につけることにした。

このように、町内すべての学校においてデータの保存環境を同じく揃えたことで、新採者だけでなく他

の市町から転任者が赴任してきた時でも、お互いにサポートしやすく、相互支援体制づくりの取り組みのひとつになるのではないかと思います。

今後は、新採の事務職員が入った場合にチームで支援できるよう、「中能登町共同学校事務室」の定例会をOJTの場として有効に活用できる体制づくりを準備したいと考えている。今後の若い世代へのサポート方法を整えていけるよう、今のうちから準備を進めていきたい。

2 今後の課題とまとめ

町内の事務職員の経験と知恵を合わせ、「中能登町の共同学校事務室」ではどんなことができるのか、業務改善と相互支援体制づくりについて「今できること」を考え、検討し、研究を進めてきた。

まだスタートしたばかりで発展途中ではあるが、今後も引き続き、より一層内容を深め、確実に実践し、中能登町に定着するような形として作り上げていきたいと思う。

事務職員に求められる姿は、その時代の社会情勢等、学校をとりまく状況に応じて変化している。長年、事務職員をしてきた私たちも、その変化に応じて自分自身の意識を変えていかなければならない。

1人よりも複数のチームで取り組むことで、新しい発想が芽生え、新たな可能性も広がっていくと思う。それが新しい時代において求められる、「事務をつかさどる」学校事務職員、そしてより主体的でより積極的に学校運営に参画することにつながり、結果的に事務職員どうしの資質向上にもなるのではないかと感じている。